「学習の３段階理論」を正確に身に付け、新しい学年を迎えよう

開倫塾
塾長 林　明夫

Q：「学習の３段階理論」とは何ですか。

A：(林明夫：以下省略)学力向上のための効果の上がる学習方法、勉強の仕方として、私が 30 年以上かけてまとめ上げた考え方です。

学習を「理解」、「定着」、「応用」の３つの段階に分け、それぞれの勉強の仕方を工夫しながら、学力を確実に上げる勉強方法です。

Q：学力は本当に上がるのですか。

A：本当かどうかは、この方法で勉強に取り組んだ方に聞いてみて下さい。学力が向上したという答えが必ず返ってくると思います。

Q：そうですか。そこまで言うのなら、試しにやってみようかな。では、お聞きします。第１段階の「理解」とは何ですか。

A：(１)よく質問して下さいました。ありがとうございます。「理解」とは、学習したことが「うん、なるほど」とよくわかること、腑(ふ)に落ちることです。

(２)この「理解」には、学校や塾などの先生の授業を聴いてよくわかる場合と、自分で教科書や参考書などを勉強してよくわかる場合の２つがあります。

(３)学校や塾などで先生から教えていただいて「理解」するときのポイントは、手を机の上に置き、先生の目を見て、先生の教えて下さることを熱心に聴くことです。先生の指示に従って、授業に熱心に参加することも大切です。授業中に大切と思われることはノートにどんどん取り続けることも、とても大切です。

(４)授業中に先生がいくら熱心に教えて下さっても、欠席や遅刻、早退、居眠り、おしゃべり、ケータイをしたりボーッとして他のことを考えていたりしたのでは「理解」の妨げになりますから、避けましょうね。

(５)自分で学校や塾の教科書・教材などを勉強して「理解」するときのポイントは、学校や塾の先生から授業を受けるときと同じ熱心さで、一行一行、一語一語ゆっくりとかみしめながら「ああ、これはこういうことなのか」とよくわかるまで、何回も繰り返して文章を読むことです。

(６)意味のわからない語句があったら、「気持ちが悪い」と思い、辞書や各科目の用語集、学年別の参考書で意味を調べ、調べたことは科目別の意味調べノートに必ず記入しておくことです。

(７)予習は何のためにするのかと、考えたことがありますか。私は、よくわからないところをはっきりさせてから授業に臨むためにするものと考えます。教科書や問題集を自分でよく読み、書かれていることがどのような意味なのかをまずは自分の力で考える。問題を自分の力でノートに解いてみる。自分で考えてどうしてもわからないところがあれば、辞書や科目別の用語集、学年別の参考書で調べる。その結果はノートに書いておく。それでもわからないときは、友達に聞いたり、学校の図書室や近くの図書館で調べたりする。インターネットでも調べてみる。このようにして何がわからないかをはっきりさせてから学校や塾の先生の授業に臨むことが、予習をする意味だと私は考えます。

以上が、第１段階の「理解」のポイントです。

Q：第 2 段階の「定着」とは何ですか。

A：「うん、なるほど」とよく「理解」したことを、「スミからスミまで」正確に「身に付ける」ことです。この「定着」のポイントは 3 つあります。

(1)1 つ目のポイントは、学校や塾の授業でよく「理解」した教科書やテキスト、授業のときに取ったノート、各科目別の意味調べノートなどを大きな声を出して読むこと、つまり音読することです。音読で大切なのは、書いてあることが自由自在にスラスラと読めるようになるまで何回も、何十回も、何百回も読む練習をすることです。これを「音読練習」と言います。「音読練習」を繰り返し行い、書いてあることをスミからスミまで全部覚えてしまうことが大事です。

この「音読練習」だけでも、学力は相当向上します。「音読練習」をして一度身に付けたことは、一生忘れません。

(2)2 つ目のポイントは、よく書けないような語句や図は、すべての科目とも手が覚えてしまうくらいまで「書き取り練習」を徹底的に行うことです。「書き取り練習」が大事なのは、国語の漢字や英語のスペリング(綴り字)だけではありません。数学の公式や社会の地名・人名・出来事・憲法の条文、理科の図や公式、音楽の楽譜など図表も含め教科書などに出ていることすべてを正確に書けるまでにすることが大事です。その学年で学んだことは、その学年の間にすべて正確に書けるまでにしましょう。

この「書き取り練習」は、一生に一回、今このときに行うのみだと思い、手が痛くなるまで行って下さい。このようにして身に付けたものは、一生忘れません。「書き取り練習」をしない限り、いつになっても覚えられない語句は山ほどあります。社会に出てからも「書き取り練習」を続けて下さいね。

(3)3 つ目のポイントは、「計算・問題練習」をすることです。一度解いた問題を何度も解き直し、なぜそのような正解になるのかが十分に「理解」できたらどうするか。その計算や問題を見た瞬間に正解がパッパッパッと出てくるまで何回も「計算・問題練習」を繰り返すことです。

定期テストや模擬試験、本番の入学試験などでは、問題を見た瞬間に条件反射でパッパッパッと正解が出る問題が多ければ多いほど、初めて解く問題や難しい問題をじっくりと考えながら解くことのできる「時間の余裕、ゆとり」が生まれます。

(4)私は、これらの「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」を「定着のための 3 大練習」と名づけました。学力が高いと言われる人ほど、一度「理解」した教科書や教材、意味調べノート、授業中のノートなどの内容を「定着のための 3 大練習」によりスミズミまで正確に身に付けています。「練習は不可能を可能にする」ということばがあります。「定着のための 3 大練習」は、「不可能を可能」にします。以上が第 2 段階の「定着」のポイントです。

Q：第 3 段階の「応用」とは何ですか。

A：(1)「応用」とは、「理解」「定着」したことを用いて「テストでよい点数が取れる」ことと、社会で役に立てることです。

(2)よい点数とは、定期テストでは 100 点、模擬試験では希望校に合格できる偏差値、入学試験では合格点を意味します。

(3)よい点数を取るためには、過去に出題された問題や予想問題を 5 年分、同じ問題を 5 ～ 6 回繰り返してやってみることです。

(4)間違えた問題は、すべて「間違いノート」に記録し、なぜ間違えたかを納得いくまで十分に研究することです。以上が第 3 段階の「応用」のポイントです。是非、本気でやってみて下さいね。

以上

― 2012 年 2 月 11 日林明夫記―